

学科	理容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	国家試験で合格点を取れる実力をつけるため、今までインプットした知識をを適切にアウトプットできるように、実際の国家試験を用いて演習を重ね、知識の定着を図る。苦手意識の高い分野については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。				
授業回	学習内容				備 考
1	関連法規（生衛法） 【到達目標】生衛法が何を規定しており、どのような制度を整えているかを説明できる				
2	関連法規（労働法・日本政策金融公庫法） 【到達目標】理容師が労働者としてどのように法律に守られているか、また経営者としてどのように労働者を使用するかのイメージをもつことができる。資金調達の際、日本政策金融公庫にはどのような制度が用意されているか説明できる				
3	関連法規（顧客に関する法律・保健所） 【到達目標】理容師・経営者として関わる顧客に関してどのような法律が用意されているか説明できる。保健所と理容師との関わりを述べるができる				
4	問題演習 1 【到達目標】理容師免許の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
5	問題演習 2 【到達目標】理容所開設の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
6	問題演習 3 【到達目標】行政処分・罰則の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
7	問題演習 4 【到達目標】総合問題・横断的な問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
到達目標	国家試験合格に向けて、理容師法の正確な知識を取得できているかを自ら確認しつつ、弱点を把握し、補強する。足りない知識についてはその都度見返し、自分の知識としていく。知識を用いて的確に問題の意図を掴み、正答する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	教科書（関係法規・制度 公益社団法人日本理容理容教育センター）				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	環境衛生において知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	2編 環境衛生 第一章 環境衛生の概要 ①環境衛生の内容 ②環境衛生の目的と意義 ③環境衛生活動 【到達目標】 理容業を通じて公衆衛生の維持、増進への責務の重要性について説明ができる				
2	2節 空気環境 ①空気と健康 ②湿度、温度、気流と健康 【到達目標】 理容所における環境衛生、特に採光、照明、換気、床などの構造設備について正しく説明ができる				
3	3節 衣服・住居の衛生 ①衣服の衛生 ②住居の衛生 【到達目標】 環境と健康、衣食住の衛生、廃棄物処理と環境保全について説明できる				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な公衆衛生及び環境衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・ 日本理容美容教育センター指定教科書 ・ 配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	理容師・美容師が理解すべき公衆衛生及び、環境衛生に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	4節 上下水道と廃棄物 ①上水道 ②下水道 ③廃棄物 【到達目標】 上下水道、廃棄物について学習し、公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得をし、衆衛生の向上に務める義務を正しく説明できる。				
2	5節 衛生害虫とネズミ ①衛生害虫 ②ネズミ 【到達目標】 衛生害虫、ネズミについて学習し、公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得をし、衆衛生の向上に務める義務を正しく説明できる。				
3	6節 環境保健 ①水質汚染 【到達目標】 水質汚染について学習し、公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得をし、衆衛生の向上に務める義務を正しく説明できる。				
4	公衆衛生・環境衛生 総合まとめ 【到達目標】 環境衛生の意義と内容を理解させると共に、理容所において特に注意しなければならない環境衛生について説明ができる。				
5	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な公衆衛生及び環境衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	感染症経路や具体的な対策と予防に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	2節 主な感染症 ①空気・飛沫を介して感染する感染症、②飲食物を介して感染する感染症 【到達目標】 空気、飛沫、飲食物を介して感染する感染症の症状、感染経路、予防策について説明ができる。				プリント
2	2節 主な感染症 ③血液を介して感染する感染症、④動物・節足動物を介して感染する感染症 【到達目標】 血液等、動物、節足動物を介して感染する感染症の症状、感染経路、予防策について説明ができる。				プリント
3	3節 具体的な対策の例 ①標準予防策、②咳のある客への対応、③病変の皮膚をもつ客への対応、④嘔吐をした客への対応 【到達目標】 理容所における感染する感染症の症状、感染経路について具体的な対策の事例を学び、予防策について説明ができる。				プリント
4	前期末試験				
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識、予防方法、具体的な対策を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	理容師・美容師が理解すべき感染症及び順守すべき具体的な対策と予防方法に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	1章 人と感染症、病原微生物 【到達目標】微生物の病原性と汚染、感染および発病について説明ができる			プリント	
2	1章 感染症の予防 2章 理容・美容と感染症 【到達目標】感染予防の3原則（感染源、感染経路、宿主の感受性）について正しく理解し説明できる			プリント	
3	2章 主な感染症 【到達目標】一類感染症、二類感染症、三類感染症の病原体、感染源、感染経路について説明ができる			プリント	
4	2章 具体的な対策の例 【到達目標】四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等の病原体、感染源、感染経路について説明ができる			プリント	
5	後期末試験				
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識、予防方法を学び、具体的な対策を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・理容師及び理容所におけ実践的な消毒法に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第三章 消毒法実習 各種消毒液 ①消毒薬の概要 ②器具の使い方 【到達目標】消毒の原則、器具や布片の消毒と注意点について正しく説明できる。				
2	第三章 消毒法実習 各種消毒液 ③常備しておくとい消毒薬と希釈液の濃度 ④消毒薬希釈法 【到達目標】消毒液の濃度、希釈の方法、器具の使い方各種消毒液の調整法と計算の仕方について説明できる。				
3	第三章 消毒法実習 理容所・美容所の消毒の実際 ①理容所・美容所における消毒の原則、②理容所・美容所の消毒設備 【到達目標】理容の業務と消毒の関係、消毒法と適用上の注意について説明ができる。				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な理容所における衛生管理技術の実例を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	2年	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	消毒法の種類や必要な条件、及び理容所における衛生管理技術の実例に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	衛生管理の実践例 第一章 理容所及び美容所における衛生管理要領 【到達目標】 理学的消毒法の消毒条件、特徴、すぐれた消毒方法と実施上の注意点について説明ができる。				
2	衛生管理の実践例 第一章 理容所及び美容所における衛生管理要領 【到達目標】 化学的消毒法の消毒条件、特徴、すぐれた消毒方法と実施上の注意点について説明ができる。				
3	衛生管理の実践例 第一章 理容所及び美容所における衛生管理要領 【到達目標】 洗い場の構造と清掃、ふた付きの汚物箱などの消毒等、理美容所における清潔保持について説明することができる。				
4	衛生管理の実践例 第二章 理・美容所の自主管理点検表 【到達目標】 理容所における衛生管要領を学び、理美容所の自主管理点検について説明することができる。				
5	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な理容所における衛生管理技術の実例を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本理容美容教育センター指定教科書 ・ 配布プリント 				

学科	理容科	担当教員	古荘		
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	人体の構造及び機能に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第7章 呼吸器系 ・呼吸器のあらまし、気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動 【到達目標】 酸素が肺においてどのように体内に入り、どう作用するのか、二酸化炭素とはなにか説明できる。				
2	第8章 消化器系① ・消化器のあらまし、消化管の仕組み、消化管のはたらき 【到達目標】 食物が胃において消化され小腸において吸収される仕組みを説明することができる。				
3	第8章 消化器系② ・消化管と物質代謝、総まとめ 【到達目標】 大腸のはたらき食物が栄養素を吸収された後、便として排泄されるまでを説明することができる。				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容科	担当教員	古荘		
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	人体の構造及び機能に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	人体総合まとめ① ・第1章～3章 【到達目標】 骨の構造や種類、筋の種類や特徴に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
2	人体総合まとめ② ・第4章～6章 【到達目標】 神経系、感覚器系、血液・循環器系に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
3	人体総合まとめ② ・第7章～8章 【到達目標】 呼吸器系、消化器系に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
4	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容	担当教員	古荘		
科目名	保健（皮膚）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健① ・皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と好品 【到達目標】 皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と好品を学び皮膚のケアについて説明することができる。				
2	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健② ・皮膚と体内病変、皮膚と水分の脂の状態、皮膚・付属器官とホルモン 【到達目標】 ホルモンが皮膚に与える様々な影響を整理しながら把握し、説明することができる。				
3	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健③ ・皮膚の保護と手入れ、毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ、子どものおしゃれによる皮膚トラブル 【到達目標】 理容の業務と関連性が高い皮膚や毛髪に関するケアに関して、正しく説明できる。				
4	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患① ・皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法、皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹 【到達目標】 アレルギーが発生するメカニズムを理解させると共に理容技術によってアレルギーが発生する可能性があることを理解させる。				
5	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患② ・口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害、角化異常による皮膚疾患 【到達目標】 角化異常による皮膚疾患について説明できる。				
6	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患③ ・色素異常による皮膚疾患、血管腫（アカアザ）、脂腺母斑 【到達目標】 腫瘍について、良性か悪性かの判断ができる。				

授業回	学習内容	備考
7	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患④ ・ 下肢静脈瘤、総まとめ 【到達目標】 理容所と皮膚疾患の関連性について説明することができる。	
8	期末試験（前期）	
到達目標	理容師として必要な皮膚科学を知識を学び、国家資格を得るにあたって、十分に必要な知識を習得している。	
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）	

学科	理容	担当教員	古荘		
科目名	保健（皮膚）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患③ ・分泌異常による皮膚疾患、化膿菌による皮膚疾患、ウイルスによる皮膚疾患 【到達目標】ウイルス、化膿菌による皮膚疾患の感染症予防について正しく説明することができる。				
2	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患④ ・真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍 【到達目標】真菌や衛生害虫による皮膚疾患の感染症予防について正しく説明することができる。				
3	皮膚総まとめ① 第1章1項～7項 【到達目標】皮膚の表皮、真皮、皮下組織に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
4	皮膚総まとめ② 第2章1項～4項、第3章1項～3項 【到達目標】毛、脂腺、汗腺、爪に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
5	皮膚総まとめ③ 第4章1項～11項、第5章1項～4項 【到達目標】対外保護作用、体温調節、知覚作用と皮膚反射、分泌作用、呼吸作用に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。				
6	皮膚総まとめ④ 第5章5項～11項、第6章1項～8項 【到達目標】皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と好品、皮膚と体内病変、皮膚と水分と脂の状態についての知識を増やし、説明できる。				

授業回	学習内容	備考
7	皮膚総まとめ⑤ 第6章項～9項～19項 【到達目標】 皮膚の異常とその種類に関する知識の確認を行い、正しく説明できる。	
8	期末試験（前期）	
到達目標	理容師として必要な皮膚科学を知識を学び、国家資格を得るにあたって、十分に必要な知識を習得している。	
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）	

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	使用する方法だけでなく、成分や関連法規を含めた香粧品の構成を理解する。 皮膚や毛髪の構造を理解する事に作用の内容を発展的に理解する。				
授業回	学習内容				備 考
1	①香粧品概論 ②法律や規制 【到達目標】香粧品の一般的概念と香粧品に関わる法律について説明できる				授業後小テスト実施
2	①香粧品の取り扱い ②安全性など 【到達目標】香粧品の取り扱い方法や安全性の基準について説明できる				〃
3	①香粧品の種類、性状 ②皮膚 ③頭皮 【到達目標】香粧品の剤型や性状の特性、皮膚や頭皮の構造を説明できる				〃
4	①水溶性原料 ②油性原料 【到達目標】香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できる				〃
5	①界面活性剤 ②乳化について（実験と連動して説明）③高分子化合物 【到達目標】香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できる				〃
6	前期のまとめ：香粧品の法律・原料・剤型の確認 【到達目標】香粧品の使用目的や用途により原料から剤型の特徴を説明できる				〃
7	①色材 ②香料 【到達目標】香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できる				〃
8	①その他の配合成分 ②ネイル・まつ毛エクステンション用 【到達目標】香粧品に用いられる製品安定化剤について説明できる				〃
9	①皮膚洗浄用香粧品 ②化粧水 【到達目標】皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できる				〃
10	③クリーム ④その他の基礎香粧品 【到達目標】皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できる				〃
11	①メイクアップ ②芳香製品 【到達目標】各種香粧品の特徴を理解を深め説明できる				〃
12	①頭皮・毛髪用 【到達目標】染毛剤、パーマ剤を含む頭毛用香粧品の成分、法律や注意事項を説明できる				〃
13	まとめ 【到達目標】様々な種類の香粧品についての知識を増やし、説明できる				〃
14	まとめ 【到達目標】理容師として必要な香粧品に関する知識の確認を行い、正しく説明できる				〃

到達目標	①香粧品に関する法律について知ってうえでの施術を可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書(香粧品化学) ・まとめと概要のプリント(毎授業時に配布)

学科	理容科	担当教員	坂上		
科目名	文化論（理容文化論）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ファッション文化史 西洋編③ 【到達目標】 16世紀17世紀の髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
2	・ファッション文化史 西洋編④ 【到達目標】 18世紀の髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
3	・ファッション文化史 西洋編⑤ 【到達目標】 18世紀19世紀の髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
4	・期末試験（前期）				
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変化の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	坂上		
科目名	文化論（理容文化論）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ファッション文化史年表① 【到達目標】 1910～1960年代のの髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
2	・ファッション文化史年表② 【到達目標】 1960～1980年代のの髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
3	・ファッション文化史年表③ 【到達目標】 1990～2010年代のの髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
4	・期末試験（後期）				
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変化の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	坂上		
科目名	文化論（ファッション学）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・ファッションと理美容の接点を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル業界の仕組み 【到達目標】 秋冬のコレクションからトレンドに関する知識の学習し、これから流行する色や素材ファッションについて説明することができる。 			プリント	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・70～90年代のファッションの歴史 ・2000年～現在のファッションの歴史 【到達目標】 流行したファッションに関する知識の学習することで、過去のファッションが現代ではどのようにリバイバルしているかについての知識を増やし、説明することができる。 			〃	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションの組み合わせ① 【到達目標】 各チームのテーマに沿って、ファッション、色、素材、形からどのように組合わせていくかについての知識を学び、コーディネートについて説明することができる。 			〃	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションの組み合わせ② 【到達目標】 各チームのテーマに沿って、ファッション、色、素材、形からどのように組合わせていくかについての知識を学び、コーディネートについて説明することができる。 			〃	
到達目標	学科内の発表会（コレクション発表会）に向け、ファッションのノウハウを感じ、学んで、理美容とファッションの整合性を理解する。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・授業毎にプリント（処方）配布				

学科	理容科	担当教員	坂上・古荘		
科目名	文化論（理容フォト）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	ポートレート写真撮影をベースに、良い写真とはどういうものか（アングル、明度、彩度、フォーカスなど）を学習する。美容写真撮影の工程が理解できるようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> ・フォト授業の目的について 【到達目標】 カメラの取り扱いについて正しく説明できるようになる。				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・一眼レフカメラによる、各種設定と、その効果について 【到達目標】 機材のセッティングと取り扱い正しく説明できるようになる。				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・一眼レフによるポートレート撮影実習① 【到達目標】 グループでテーマを決めて計画を立て、それぞれのグループで代表1名をトータルコーディネートし撮影を行なう				
4	<ul style="list-style-type: none"> ・一眼レフによるポートレート撮影実習② 【到達目標】 グループでテーマを決めて計画を立て、それぞれのグループで代表1名をトータルコーディネートし撮影を行なう				
到達目標	サロンなどで行っている「作品撮り」をどのように行っているのかが理解できるようになる。また、簡単なものであれば作品撮影が出来る様になる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	オリジナルテキスト「理容フォト」「理容フォト設定編」使用。				

学科	理容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容				備 考
1	1年生時に創作した班ごとのコンセプトを確認し整合性を指導。 【到達目標】 ・差別的優位性を発揮できる店舗コンセプトを作り方、方法論を獲得し、将来、自分がその場面に遭遇した場合、作成できるようになる。				
2	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（前半） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
3	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（後半） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
4	班ごとに作成した仮想店舗のコンセプトの再確認と役割分担確認 【到達目標】 ・コンセプトに基づいたチームの役割分担の方法を説明できるようになる。同時に、チームで行うことの大切さを習得する。				
5	「運営管理」テキストを活用し、と国家資格学科試験に対応できるための能力を養いながら、4回までのグループワークで実行した「価値の知識」の習得を目指す。【到達目標】としては、理容業のサービスの価値の中身を説明できるようになる。				
6	「運営管理」テキストを活用し、「マーケティングの視点」の習得 【到達目標】 ・前の授業の「価値」の伝える方法論や、実行する人の管理とはなにか、を説明できるようになる。				
7	テキストを活用し、「理美容業経営の視点」の習得と小テスト 【到達目標】 ・外部環境の変化や顧客のリピーターがなぜ大切かなどを説明できるようになる。また、財務諸表についても基礎は分かるようになる。				
8	「運営管理」テキストを活用し、「労務管理知識」の習得と小テスト 【到達目標】 ・労働基準法や給与について、労働安全衛生法などの概要を説明できるようになる。				
9	テキストを活用し、「社会保険知識」の習得と小テスト 【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。				

到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を課そう体験すると同時に、国家試験科目の「運営管理」に対応できるものとする。
評価方法	個別の知識については、前期と後期にテストを行い、その点数により、また、市場創造力については、発表内容によって評価する。
テキスト	運営管理(日本理容美容教育センター)及びプリント プリントは紛失すると履修できないので、必ずファイリングし、授業に持参すること

学科	理容科	担当教員	高橋・伊原		
科目名	理容技術理論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1~4	ヘアカッティング	(1) スタンダードヘアの概要 (2) スタンダードヘアの用具の持ち方と操作 (3) スタンダードヘアのカット技法			
5・6	パーマメントセット	(1) パーマネントウェービング (2) コールドニ浴式パーマネントウェーブの一例 (3) アイアニング			
7・8	ヘアカラーリング	(1) ヘアカラーリング技術のプロセス (2) ヘアカラーリングの一例			
9~12	シェービング	(1) メンズフェイスシェービング (2) メンズネックシェービング (3) グルーミング (4) レディースシェービング			
13・14	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア (3) ハンドケア			
15~17	理容用具	シザース、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘア アイロン、ヘアドライヤー			
18~20	ヘアカッティング	スタンダードヘアのスタイル別カットシステム			
21~29	国家試験対策授業	(1) 理容技術理論 1 (2) 理容技術理論 2			
30	学期末試験	学科試験			
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	高橋・伊原		
科目名	理容実習	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	360
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1～4	マッシュウルフ	ヘアデザインの幅を広げるため、ディスコネクションを随所に取り入れ、カットラインが繋がらないヘアスタイル及びカッティング理論、技術を習得する			24時間
5～7	アップバング スタイル	ツブブロックスタイルを通じてヘアスタイルのデザイン別に合わせたツブセクションラインのカッティング理論及び技術を習得する			18
8～11	クロップスタイル	フェードカット スタイルの特徴である美しい刈り上げの色彩とシルエットを表現できるようになるため、フェードカット理論及びクリッパー操作やスタンダードカット技法の応用技術を習得する。			18
12～18	フォーマルカット	国家試験合格を見据えながらミディアムカットスタイル（試験課題）をデザインするため、必要なヘアカッティング理論とスタンダードヘアカット技術の習得。			44
19～21	ブロースカット	ブロースカットの特徴である美しい調和のとれた短髪(起毛)によるスクエア シルエットを表現できるようになるため、ヘアカッティング理論とスタンダードカット技術及びブローセット理論・技術の習得。			18
22～30	シェービング	シェービングを通じてお客様に快感を与えられるようになるため、シェービング理論と技術及び職業人としてお客様から好感を持たれる接客力の習得。			62
31～34	理容シャンプー	理容シャンプーを通じてお客様に快感を与えられるようになるため、シャンプー理論と技術及び職業人としてお客様から好感を持たれる接客力の習得。			26
35～49	資格試験課題 (ミディアムカット)	国家試験合格レベルのミディアムカットに必要なヘアカッティング理論とスタンダードカット技術(基礎刈り、仕上げ刈り、セニングカット)を実習班で学び合う。			90
授業回	学習内容				備 考

50～58	資格試験課題 (顔面処置)	国家試験合格レベルの顔面処置に必要なシェービング理論と顔面処置技術(レーザーリング、シェービング、スチーミング、乳液塗布及び拭き取り)を実習班で学び合う。	50
59・60	資格試験課題 (整髪)	国家試験合格レベルの整髪及び仕上げに必要なヘアセッティング理論と整髪技術(整髪量塗布、コーミング、ブラシワーク、ブローセット)を実習班で学び合う。	10
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（絵画法とデッサン）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	心の「あや」に触れる空間や非日常的空間の作り方を学び、お客様一人一人に喜んで頂ける店舗づくりの方法を理解する。また、他店との差別化の方法を学び、リピーターや新規顧客を獲得できる店舗開発を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	“サロンデザイン 2” ンデザイン及び店舗案内表示の制作 【到達目標】 ブラッシュアップ			サロ	
3	“プレゼンテーション” プレゼンテーションの準備 【到達目標】 ブラッシュアップ				
4	“プレゼンテーション” プレゼンテーションの実施 【到達目標】 人を魅了する話し方・言葉を習得する				
到達目標	1.マーケティングについて理解する 2.店舗デザインに重要な人の動き(動線)を知る 3.日常から非日常へ誘う空間づくり(インテリア)の大切さを知り、お客様に愛される店舗デザインの開発方法を理解する				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する、なお、所定の授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	各課題においてプリント配布				

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（造形学とデザイン）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	Ibis Paintを用いて店舗開発表現方法としての透視図法や着彩テクニック及び付帯する店舗表示を作成する				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	1年時の復習と店舗デザインの具体的な表現を学ぶ。 【到達目標】 より洗練されたチョークアートの表現			クロッキー帳,直定 規など	
3～7	“より洗練された表現へ” 各チームの店舗アイデアを具体的に表現する 【到達目標】 チーム内のイメージの共有化を図る			〃	
到達目標	店舗デザインに必要な人の動き(動線)を理解し、日常から非日常へ誘う空間づくりの大切さを知ることにより、お客様に愛される店舗デザインの開発やブランドデザインについて理解する				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する、なお、所定の授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	各課題においてプリント配布				

学科	理容科	担当教員	高橋・井原		
科目名	表現技術（舞台演出）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	テーマに合わせた色や形、質感など細部にこだわった表現技法を学び、美翔祭（ヘアショー）で表現する				
授業回	学習内容				備 考
1	テーマ決定 ・テーマ背景をクラス全員で理解する ・テーマに対し、全員が同じ解釈であること ・世界観を固める				
2	モデル選出 ・モデルはウォーキング練習開始 ステージ構成決定（モデルウォーキング台本、音楽、照明）				
3～8	美翔祭りハーサル①				
到達目標	ヘアショーを通し、魅せる技術の習得及び、テーマに合わせた色や形、質感など細部にこだわった表現技法を習得する				
評価方法	課題作品により評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				
学科	理容科	担当教員	楓		

科目名	表現技術（英会話）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	1. 美容サロンでの会話を想定し、ボキャブラリの学習を主体として将来に役立てる。 2. シンプルな文系を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る。 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	Warm Up - 自己紹介 20 minutes, Unit 1 - Dates and Times 基本的な挨拶、時間、曜日、日付の会話表現 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 1				
2	Warm Up - 5minutes, Unit 2 - Greeting a client 挨拶からお待ちいただくまでの会話の流れ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 2				
3	Warm Up - 5minutes, Unit 4 - Chatting with a client 出身地、天気、趣味等のやりとり Unit 5 - Shampooing シャンプー関連会話 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 4 & 5				
4	Warm Up - 5minutes, Unit 6 - Counselling 頭部のボキャブラリ ・お客様のカウンセリング ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT				
5	Warm Up - 5minutes, Unit 7 - Cutting 頭部の各部分のボキャブラリ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 7				
到達目標	アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施し、将来に役立てる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	English for Beauty Salons				
評価方法	確認テスト(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	・ 授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	池田・榊瀬		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する資質を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・自己管理能力（セルフマネジメント）①				
2	・自己管理能力（セルフマネジメント）②				
3	・時間管理能力（タイムマネジメント）①				
4	・時間管理能力（タイムマネジメント）②				
5	・成長マインドセット①				
6	・成長マインドセット②				
7	・セルフブランディング（自分づくり）				
8	・セルフブランディング（新たな価値をつくる）				
到達目標	・『自分づくり』＝『独自の価値創造』を考え、発表する。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	池田・榊瀬		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・組織におけるリーダーとしての能力開発について考える。 ・理美容業界における新しい時代をリードするリーダーシップとマネジメントスタイルを考察する 				
授業回	学習内容			備 考	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ論① (リーダーシップとは、リーダーシップ研究に関する歴史) 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ論② (マネジメントとリーダーシップの違い) 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ論③ (リーダーシップの種類) 				
4	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ論④ (組織におけるリーダーシップの役割) 				
5	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ論⑤ (サーバントリーダーシップ) 				
6・7	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ⑦ (自分の考えるリーダーシップとは) 				
8	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のリーダーシップ論についての専門的知識を獲得する ・独自のリーダーシップ論 (モデル) を構築する 				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数 (全体の2/3) を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎にプリント配布 				

学科	理容科	担当教員	井川		
科目名	ビジネスマインド (情報処理・プレゼンテーション)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	プレゼンテーションツール（パワーポイント）で作成した情報コンテンツを用いて人前で発言・主張・提案・説明ができるスキルを学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	<p>・プレゼンテーション基礎 (プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの基本形)</p> <p>【到達目標】「プレゼンテーションの成功」とは、ただ伝えたいことを話すのではなく、聞き手の理解・納得をえることについて学習し、理解を深め説明することができる</p>			プリント	
2	<p>・メディアリテラシー ～情報を読み解く力～ (各種メディアの特性を理解、その情報収集⇔取捨選択と活用方法について知る) 【到達目標】プレゼンテーションの目的に応じた事前の準備（情報収集）について理解を深め取捨選択ができる。</p>			〃	
3	<p>・プレゼンテーション構成 (シナリオの基本構成)</p> <p>【到達目標】聞き手が理解しやすいように、話の展開を整理して伝えることができる。</p>			〃	
4・5	<p>・プレゼンテーションツール (効果的な話し方) 【到達目標】聞き手に配慮した「姿勢」「態度」「表情」「声の大きさ」「間の取り方」「スピード」で話すことができる。</p>			〃	
6・7	<p>・プレゼンテーションツール (視覚資料の効果と活用法)</p> <p>【到達目標】伝える手段としてのプレゼンテーション資料の効果的な使い方について理解を深め活用することができる。</p>			〃	
8	<p>・プレゼンテーションを実際に行う (視覚資料の使用方法を習熟する)</p> <p>【到達目標】聞き手の理解・納得をえるように配慮し、プレゼンテーションすることができる</p>			〃	
到達目標	プレゼンテーションの基本的な知識を身に付け、テーマに基づく情報の収集・整理をすることで、論理的に構成を考えることができる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	・プリント教材				

学科	理容科	担当教員	井川		
科目名	ビジネスマインド (情報処理・プレゼンテーション)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・プレゼンテーションツール（パワーポイント）で作成した情報コンテンツを用いて 社会人基礎力として必要なプレゼンテーション能力を習得する。				
授業回	学習内容				備 考
1	表現テクニック① 【到達目標】聞き手に伝わる話し方、姿勢、目線、ジェスチャーについて深く 学び話すことができる。				プリント
2・3	表現テクニック② 【到達目標】聞き手に伝わる話し方、姿勢、目線、ジェスチャーについて深く 学び話すことができる。				〃
4・5	プレゼンテーション準備 【到達目標】聞き手が理解しやすいようにプレゼンテーション資料や話の展 開を整理してシナリオが考えることができる。				〃
6	模擬プレゼンテーションの実施 【到達目標】聞き手に伝わらないところをや理解しにくいところをフィード バックをもらい内容を修正する				〃
7	プレゼンテーションの実施 【到達目標】架空のサロンの経営計画についてプレゼンテーションを行う。				〃
8	振り返りと情報の共有 【到達目標】担当講師からプレゼンテーションについてフィードバックをも らい良くできたこと、足りなかったことを理解することで、今後、活用する ことができる。				〃
到達目標	プレゼンテーションの基本的な知識と表現技術を身に付け、テーマに基づく情報の収集・整理 をすることで、論理的に構成を考え、ツールを活用したプレゼンテーションができる。				
評価方法	・学生によるプレゼンテーションを実施。 ・内容について学生自身の自己評価を踏まえ、教員が100点満点で評価する。なお、所定授業時 数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	・プリント教材				

学科	理容科	担当教員	漆原		
科目名	ビジネスマインド（簿記）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	将来、店舗の経営に従事する際、財務的視点からの経営管理ができるよう、簿記の基本的な考え方から、損益分岐点分析への応用を理解することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・簿記の基本的な考え方、勘定科目について 【到達目標】資産・負債・資本・収益・費用に属する勘定科目に関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
2・3	・財務三表 (貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要) 【到達目標】簿記の基礎的事項である借方・貸方の意味を理解し、損益計算書・貸借対照表の体系を把握し、正しく説明することができる。				
4	・収益構造（店舗経営における、財務的視点） 【到達目標】収益・費用の種類と認識・測定の基準を学習し、様々な形態の収益について、実現主義を適用する際の工夫や実現主義の例外として利益に発生主義や現金主義を適用する例を理解し、正しく説明することができる。				
5	・損益分岐点（損益分岐点及び不随する事項における店舗経営の実例） 【到達目標】損益計算書の意義を理解し、作成方法を理解し表にすることができる。				
6	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成） 【到達目標】キャッシュフロー計算書の目的と構造をに関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
7	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成） 【到達目標】営業活動によるキャッシュフローの区分の記入法に直接法と間接法があり、これらを比較することにより、計算書に関する知識を深く学習し、正しく説明することができる。				
8	確認テスト				
到達目標	簿記の基礎的基本的内容の習熟を図る。				
評価方法	確認テスト(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	・授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合理容技術理論（毛髪化学）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	医薬品医療機等法によって化粧品と薬用化粧品の違いを理解する事によって、プロとして必要な知識とお客様に適切な商品と技術を提供する				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	界面活性剤について 【到達目標】 界面活性剤の理解				
3・4	ウェーブ剤の種類 【到達目標】 毛髪にあったウェーブ剤を理解				
5・6	ウェーブ剤の種類 【到達目標】 モデル実習でウェーブ剤を理解				
7・8	カラー剤の種類 【到達目標】 染まるメカニズムを理解				
9・10	応用カラー剤の種類 【到達目標】 モデル実習でカラー剤を理解				
11・12	総復習 【到達目標】 プロとしてのカウンセリング術の理解☑				
到達目標	お客様にあったスタイルの提案と家庭でのヘアケアのアドバイスできる技術者の育成				
評価方法	アイモデルでトータルカウンセリングの実施 その対応を評価				
テキスト	雑誌などを参照				

学科	理容科	担当教員	高橋・池田・伊原		
科目名	高度総合理容技術実習 (スタイリストコース)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	180
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1~5	トレンドカット	ヘアスタイルにおけるトレンドポジションを理解し、そのイメージに合わせたヘアスタイルをデザインするためにアウトラインやテクスチャー、ディテールカットの理論及び技術を習得する。			20
6	パーマメントウェーブ	トレンドポジションに合わせたヘアスタイルの毛髪の長さや部位に合わせた実践的なパーマメント理論および技術の習得。			4
7~9	ヘアカラーリング	トレンドポジションに合わせたヘアスタイルの毛髪の長さや部位に合わせた実践的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。			14
10~23	レイヤーカット	レイヤーカットによる毛先の動きや毛流れなどの質感をコントロールできるようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。			26
24~39	3セクションカット	理想とするフォルムに仕上げていくために必要なカットアングルとパネルコントロールの理論および技術を習得する			30
40~51	デザインの読み解き	目的のヘアスタイルを作成するため、ヘアスタイルが持つ特徴やデザインを読み解く。実習班で協働し、一つのカッティングプロセスを組み立てプレゼンする。そのカッティ			22
52~72	トレンド発表会	今まで学んできた知識を活かし、予め設定されたテーマに沿い、ヘアスタイルだけでなく流行のファッションを取り入れた今年の秋冬に流行るトレンドをトータルコーディネートして発表する。			40
73~76	来客実習	教員による施術（シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験する。			6

授業回	学習内容		備考
77~80	高度カラーリング実習	お客様の要望に合わせたヘアカラーを施術するための実践的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。	6時間
81~84	高度パーマ実習	お客様の要望に合わせたパーマスタイルを施術するための実践的なパーマネントウェーブの理論および技術の習得。	6
85~88	高度理論	お客様にヘアカラーリングやパーマネントウェーブを施術していくためには、薬剤の知識及び技術に基づいた安全性が必要となる。そのために高度理論の意義を十分理解することが重要。	6
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにする技術を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う		

学科	理容科	担当教員	高橋・池田・伊原		
科目名	高度総合理容技術実習 (リラクゼーションコース)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	180
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～21	フェイシャルエステ	Ajesthe認定フェイシャルエステティシャン合格を目指し、エステティック理論・フェイシャルエステティックの基礎知識と技術を習得する。			126時間
22～25	メイク	メイクによってお客様の美しさをより引き出すために、骨格や肌の色、バランスに合わせたナチュラルメイクが表現できるよう、フェイスプロポーション・ベースメイク・ポイントメイクの技術を習得する。			26
26・27	来客実習	教員による施術（シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験する。			6
28	高度カラーリング実習	お客様の要望に合わせたヘアカラーを施術するための実践的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。			8
29	高度パーマ実習	お客様の要望に合わせたパーマスタイルを施術するための実践的なパーマネントウェーブの理論および技術の習得。			8
30	高度理論	お客様に対しヘアカラーリングやパーマネントウェーブを施術していくためには、薬剤の知識及び技術をはじめ、安全性が必要とされる。そのために高度理論の意義を十分理解し、理容師としての応用的知識・技能を習得する。			6
到達目標	肌質やスキントラブルを分析し、シエステ(=シェービングエステ)を駆使しながらモデルの肌を美しくする技能を身につける。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータルビューティーまで発展させた立案力・提案力を身につけている。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				

学科	理容科	担当教員	菅野		
科目名	表現技術（英会話）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標 ・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・理容美容サロンでの実践的な状況を想定したボキャブラリーを主体とした学習を行なう ・シンプルな文型を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る ・アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する 				
授業回	学習内容			備 考	
1	Warm Up - 5minutes, Unit 1 - Dates and Times 基本的な挨拶、自己紹介、時間、曜日、日付の 会話表現 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 1				
2	Warm Up - 5minutes, Unit 2 - Greeting a client 挨拶からお待ちいただくまでの会話の流れ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 2				
3	Warm Up - 5minutes, Unit 4 - Chatting with a client 出身地、天気、趣味等のやりとり Unit 5 - Shampooing シャンプー関連会話 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 4 & 5				
4	Warm Up - 5minutes, Unit 6 - Counselling 頭部のボキャブラリ ・お客様のカウンセリング ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 6				
5	Warm Up - 5minutes, Unit 7 - Cutting 頭部の各部分のボキャブラリ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 7				
6	Warm Up - 5minutes, Unit 8 -Perming ・パーマ関連のボキャブラリとダイアログ				
7	Warm Up - 5minutes, Unit 9 - Colouring ・ヘアカラー関連のボキャブラリとダイアログ				
8	期末試験(前期)				
到達目標	理容サロンの現場に立つ実践的な英語を学び、外国人でも遜色のない接客応対ができるようになる。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	・ English for Beauty Salons				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	菅野		
科目名	表現技術（英会話）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標 ・ねらい	1. 理容美容サロンでの実践的な状況を想定したボキャブラリーを主体とした学習を行う。 2. シンプルな文型を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る。 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する。				
授業回	学習内容				備 考
1	Warm Up - 5minutes, Unit 10 - Finishing off ・ヘアブローのボキャブラリとダイアログ				
2	Warm Up - 5minutes, Unit 11 - Advice, Unit 12 - Payment ・男性の顔のボキャブラリ・アドバイス関連のボキャブラリとダイアログ・ 支払時の会話				
3	Warm Up - 5minutes, Review (1) of Unit 1 - Unit 3 ・Unit 1- Unit 3 の復習				
4	Warm Up - 5minutes, Review (1) of Unit 4 - Unit5 ・Unit 4- Unit 5 の復習				
5	Warm Up - 5minutes, Review (2) of Unit 6 - Unit 7 ・Unit 6- Unit 7 の復習				
6	Warm Up - 5minutes, Review (2) of Unit 8 - Unit 9 ・Unit 8- Unit 9 の復習				
7	Warm Up - 5minutes, Review (2) of Unit 10 - Unit 12 ・Unit 10- Unit 12 の復習				
8	期末試験(前期)				
到達目標	理容サロンの現場に立つ実践的な英語を学び、外国人でも遜色のない接客応対ができるようになる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	English for Beauty Salons				